

新たなグローバル・地域の将来という文脈における
ロシアと北東アジア各国間におけるエネルギー協力のパラダイムシフト：
エネルギー取引主体からイノベーションと技術協力主体への移行

ロシア科学アカデミーシベリア支部エネルギーシステム研究所副所長
ボリス・サネーエフ

2018年1月30日開催の2018年北東アジア経済発展国際会議イン新潟（NICE）における発言要旨

1. ロシアの国としての意思は、中国、日本、韓国や東アジア、北東アジアの他の国々と互いに有益なエネルギー協力を強化していくこと
国の東部地域（東シベリアや極東が該当）は巨大でエネルギー潜在性の高い地域であり、ロシアにとって戦略的に重要地域の最前線として関心を向けている地域である。
2. 長らく東シベリアと極東のエネルギー開発は、この地域に向けられるエネルギー需要に合わせるというだけでなく、北東アジアの国々におけるエネルギー市場において、互いが有益であることを保証するようなエネルギー資源の輸出を行うという目的で行われてきた
3. 現在、ロシアのエネルギー戦略が東部に向き始めている根本的な要因として、石油、天然ガス、石炭などのロシアのエネルギー資源がアジアの市場に向けられるという内容のいくつかのメガプロジェクトの存在がある。
4. グローバルと地域の将来という文脈においてロシアが、北東アジア地域の国々とエネルギーの取引という協力だけでなく、イノベーションと技術政策の実行という方法により協力していくことが最も重要である。
5. エネルギーの分野において、ロシアと北東アジアの国々の間でイノベーションと技術協力を行う際の優先的な内容は、
 - ロシアに新しいガス石油化学クラスターを構築し、それらを統合的に管理すること
 - グローバルな電力システムである東方への"ウィング"を形成すること
 - 小規模電力プラントと再生可能エネルギーの設置により東部の系統に属していない、あるいはアクセスしづらい消費者に安定的な電力供給を行う方策とする
6. ロシアと北東アジア地域の国々の間のエネルギーの分野においてイノベーションや技術協力に関する科学的な長期戦略を進めるべきであるという要求は長らく存在してきた。
7. ロシア東部においてロシア科学アカデミー最大のエネルギー研究機関であるエネルギーシステム研究所は、この要求を叶えるための準備と、ロシアと北東アジアに位置するすべての国のために決定的な役割を果たすための準備ができている。

[ERINAにて翻訳]